

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名

長 崎 県

学校の概要 (平成15年4月現在)

学校名	島原市立第五小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	3	3	3	2	0	15	22
児童数	75	78	91	81	83	79	0	487	

研究の概要

1. 研究主題

わかる喜びを味わわせ、未来に拓く確かな学力の向上を目指して
- 個に応じた指導の実践と評価を生かした指導の改善を通して -

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

全学年・算数科

学力調査の結果、本校の児童の学力は全国と比較して低く、特に算数科において、高学年につれて低くなる傾向が見られ、個人差も大きいという結果が出た。そこで、算数科において、新学習指導要領のねらいである「確かな学力」の向上を図るため、上記主題に沿って研究仮説を設定し、実践研究を進めていくこととした。

(2) 年次ごとの計画

平成15年度

研究テーマ

児童の実態調査を実施し、研究仮説を設定する。

授業実践や教材開発による仮説の検証を通して、研究主題の具現化を図る。

研究の見通し(仮説)とその内容・方法

算数科における 少人数指導 や、自学自習 の場において、個に応じた指導 や評価を生かした指導 を行うことにより、子供はわかる喜びを味わい、自ら学習に取り組む、生涯学び続けるために必要な確かな学力を身につけることができる だろう。

少人数指導について、以下のような学習の場を設ける。

学級を複数の教師が指導するTT指導

学級を複数の集団に分けて指導する少人数指導

学級をいくつかの集団に分けて指導する少人数指導

自学自習 について、以下のような学習の場を設ける。

自分の学力にあった学習課題を自ら選択し、その課題解決に取り組み、自己評価する学習

個に応じた指導 や評価を生かした指導 について、以下の指導を実践・考察する。

一人ひとりの学力や未習熟内容に対応し、自学自習 で系統的な復習を行わせる
自学自習 における自己評価を、教師が認めたり賞賛したりすることにより、学習 に対する意欲・関心を高める

新たな単元の学習に入る前に、一人ひとりの学力を把握したうえで、未習熟内容 の習熟を図る

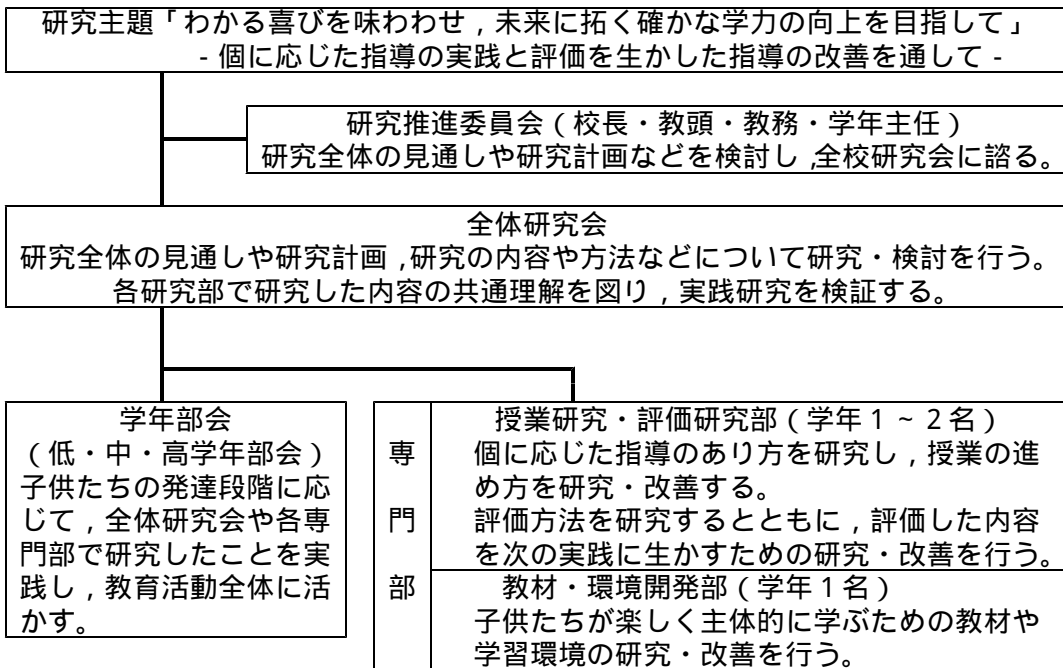
単元の学習の途中で、一人ひとりの学習内容の習熟度を把握し、個に応じた指導 の手立てを工夫して、習熟 を図る

単元の学習の終わりに、一人ひとりの学習内容の習熟度を把握し、補充学習により既習内容の定着と発展を図る

平成16年度
研究テーマ

平成15年度の研究成果と課題を考察し、研究主題及び仮説を設定し直す。
仮説の検証を通して、学校教育目標及び研究主題の具現化を図る。
以下、平成15年度と同様に研究を進める。

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

少人数による授業について

1学期に試みた少人数編成（2学級 3グループ）による算数科指導では、1学級あたりの児童数が26名になったため、少人数指導の長所である「下位児童への指導の充実」が実行できなかった。

そこで、2学期からはすべての学級でTT授業を実施し、授業の中での少人数指導（課題解決の方法別に指導）や個別指導（下位児童に指導する時間の確保）、習熟度別指導（単元の終わりに習熟度に応じた指導を行う）などの場を設定した。市販テストの結果では、下位児童の学力は着実に向上していると思われる。

少人数指導や習熟度別指導は、児童の実態調査による学級の再編成によってのみ可能なのではない。指導方法や評価方法の改善により、それぞれの学級の長所を生かした学力向上は可能だと考える。

自学自習について

朝の時間に行うガマダセ学習は学級担任がそれぞれ実践している現状だが、全員に同じ課題を与えることも多い。「学習課題を自ら選択し解決に取り組み、自己評価する学習」に継続的に取り組ませるために、全学年に共通した学習プリントを作成中である。

今後は、余暇時間の活用のしかたと併せて、自学自習の一層の充実を図る必要がある。

個に応じた指導や評価を生かした指導について

下位児童の学力を向上させるためには、学習内容の理解度を授業ごとに評価する必要がある。授業が終わるごとに練習問題に取り組みせ、理解・習得していない児童の補充学習を実施することで、「まちがいの再生産」を防ぐことができる。また、上位児童の学習意欲をさらに喚起するためにも、授業ごと、あるいは単元の学習が終わることの発展問題への取り組みが欠かせない。

単元構想表による学習内容と評価項目の精選，毎時間の評価とそれを生かした個別指導などの研究を進め，すべての児童にわかる喜びを味わわせ，確かな学力を身につけさせることをめざしたい。

学力等把握のための学校としての取組

1．教研式標準学力検査C R T（図書文化社）

- (1) 調査の目的
本校児童の学力を全国平均と比較し，現在の学力の実態を把握する。あわせて，本校児童の前年度の成績と比較し，学力がどの程度向上したかを把握する。
- (2) 実施内容
第2～6学年において，国語科と算数科について実施する。
- (3) 調査時期
毎年，6月中旬に行う。

2．長崎県基礎学力調査（長崎県教育委員会）

- (1) 調査の目的
本校児童の学力を長崎県平均と比較し，現在の学力の実態を把握する。あわせて，前年度の成績（一学年上級の児童の成績）と比較し，学力がどの程度向上したかを把握する。
- (2) 実施内容
第5学年において，国語科と算数科について実施する。
- (3) 調査時期
毎年，1月下旬に行う。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

1．研究発表会の開催予定

- (1) 日時 平成16年11月中旬に開催予定
- (2) 場所 島原市立第五小学校
〒855-0878 島原市大下町丙1049
TEL(0957)62-2761
FAX(0957)62-7504

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無